

〔著者紹介〕

勝田 悟 (かつだ さとる)

1960年石川県金沢市生まれ。工学士(新潟大学)〔分析科学〕、法修士(筑波大学大学院)〔環境法〕。環境問題研究者。

職歴等 政府系および都市銀行系シンクタンク(研究員、副主任研究員、主任研究員、フェロー)、産能大学助教授を経て、東海大学・大学院准教授。

研究活動は、環境政策研究(技術政策、法政策、公益事業計画)を実施。社会的活動は、経済産業省、地方公共団体、電線総合技術センター、日本電機工業会、日本放送協会、日本工業規格協会他複数の公益団体・企業、民間企業の環境保全関連検討の委員長、副委員長、委員、アドバイザー、監事、評議員などをつとめる。

〔主な著書〕

【単著】 『環境政策』(中央経済社、2010年)、『環境保護制度の基礎 第2版』(法律文化社、2009年)、『環境学の基本』(産業能率大学、2008年)など。

【共著】 『文科系学生のための科学と技術』(中央経済社、2004年)、『21世紀KEYWORD』(東海大学出版会、2008年)など。